

令和7年度橿原市戦没者追悼式 平和記念式典

追悼のことば



本日ここに、戦没者御遺族の皆さまのご出席をいただき、橿原市戦没者追悼式ならびに平和祈念式典が挙行されるに当たり、橿原市議会を代表いたしまして追悼のことばを申し上げます。

終戦から八十年が経ち、今、私たちはこの平和な空の下で、当たり前の日常を過ごしています。しかし、この「当たり前」がどれほど多くの尊い命と、深い悲しみの上に成り立っているかを決して忘れてはなりません。愛する家族を守るため、故郷を想い、未来を信じて戦場へと向かわれた方々の胸に去来したであろう、数えきれないほどの想いを想像するとき、私たちの心は深く、静かな悲しみに包まれます。

「平和とは何か」。それは単に争いが無い状態を指すものではありません。それは相手を認め、理解し、対話を重ね、違いを乗り越えようとする、絶え間ない人間の営みの積み重ねによって初めて実現されるものです。

一方、今、世界の空は、依然として戦禍の暗雲に覆われています。「対話と理解」という人間の営みが、いかに脆弱であるかを私たちに突きつけています。しかし、それでも私たちは、この現実から目を背けることなく、慈しみ深い人間の営みをもって、平和を希求し続けます。そして、戦没者の皆さまがかげがえのない命を懸けて守ろうとしたこの日本を、現代を生きる私たちが、命の尊さを心に刻み、平和の重さを噛みしめながら、しっかりと歩んでいくことをここにお願い申し上げます。

結びに、今一度、戦争により亡くなられた全ての方々のご冥福と、ご遺族の皆さまのご多幸を心からご祈念申し上げ、追悼の言葉といたします。

令和七年八月二十日

橿原市議会議長 こうすい卓也

